

短期大学における保育者養成の在り方に関する調査研究 ～短期大学2年間で専門職を育てるための養成教育改革を提言する～

小松 歩・安形 元伸・瀧口 優*・花原 幹夫・中山 正雄*・
長井 覚子・源 証香・宮崎 佑介**・佐藤 文

研究実績の概要

四年制大学を中心とした保育者養成が進む中で、短期大学の保育者養成の意義や課題を整理し、今後の短期大学における保育者養成のあり方を検討することを目的として、2019年度：卒業生を対象としたアンケート調査、2020年度：実習施設（幼稚園・保育所・施設）を対象としたアンケート調査を行った。2021年度は、保育者養成校3校を対象としたインタビュー調査を行い、提言につなげることとした。

【目的】

これまでの研究結果から見えてきた短期大学における保育者養成で検討すべき事項を踏まえ、同じく保育者養成を行っている短期大学生での養成について（養成施設の特徴やカリキュラム・実習の特徴、工夫など）の聞き取り調査及び意見交換を行い、短期大学に保育者養成のあり方検討の一助とする。

【研究方法と対象】

下記内容を中心とした半構造化インタビューを対面もしくはオンラインにて2時間程度実施した。

1. 短期大学での養成や学びに必要と考えること、
2. カリキュラム、実習で重視していること（特色）、
3. 養成校に求められる学びの環境について

聞き取り対象は、研究員の研究上のつながりや学校 HP 等の情報をもとに、養成課程に特色のあると思われる3校を選定した。A 短期大学：体験や地域との連携を重視したカリキュラム、B 短期大学：学生の興味や得意分野に応じて1年後期からコース制カリキュラム、C 短期大学：実習の時期、順序が本学とは異なり、3年次専攻課程をもつ（都合により未実施）。

【結果と考察】

A 短期大学：2022年3月28日、13：00～15：00、
A 短期大学にて対面で実施、B 短期大学：2022年
3月30日、10：00～12：00、Zoomにて実施した。
各短期大学の特徴を表にまとめた。

表 各短期大学の特徴

	A短期大学	B短期大学
カリキュラム・実習	◎通年の幼稚園実習を実施 ◎フィールドワーク科目（2年）：教員の（得意分野）の場所へ ・コロナ禍前：スペインにホームステイ、カンボジア、ネパール、富山利賀村 ・コロナ禍：演劇、バレエ、オペラ、ミュージカル	◎プレ実習で自信をつけ本実習を行う。 ・1年前期に附属幼稚園でプレ実習を行う。「幼稚園の様子」「保育者の役割」について理解した上で、本実習を実施。 ◎カリキュラム*基礎共通科目+得意分野コース

*白梅学園短期大学名誉教授

**保育科（～2022年3月31日）、近畿大学（2022年4月1日～）

	<p>◎教養科目「現代社会論」2年 *保育だけではなく、社会に目を向けよう。 ※卒業必修(2コマ) 非常勤講師担当で土日も学外へ</p> <p>◎ボランティア活動(プレーパーク、スタバで読み聞かせ、子ども食堂)</p>	<p>・1年次基礎共通科目を履修し、2年次に「自然保育コース」、「福祉社会コース」、「表現文化コース」から、深く学びたい分野を選択。</p> <p>◎ボランティア活動 ・小学校の特殊学級の子どもと関わる機会 ・地域の祭りに参加</p>
ゼミナール活動	<p>◎2年次からゼミ開始(10人弱)子どもと関連したテーマで行う。希望のゼミにはなかなか入れない。</p> <p>◎2月にゼミ発表会がある。(壁新聞のような1人ひとりポスターを作成)し、学会形式で、時間で1年生、2年生がポスターを回る)</p>	<p>1年前期より開講(機械的に配属)1年後期に希望を踏まえて再配属(10名程度)</p> <p>◎保育実践研究発表会にて、卒業研究や作品制作について発表。</p> <p>◎他大学のゼミと交流を行っている。</p> <p>◎実習指導もリンクさせて行っている。</p>
短期大学での保育者養成	<p>◎短大の学生は、意欲ある。</p> <p>◎専攻科があるとよい。</p> <p>※卒業生に、研修生制度を実施している。(現状、受ける人はいないが、これまで実際に受けた学生は力をつけていると思う。)</p> <p>◎この地域(千葉県)には5つの養成校があり、特色を明確にする必要あり。</p>	<p>◎インタビュー調査(結婚出産を機に保育者を辞めるか辞めないかの違い)から、2年間の養成のあり方について検討している。</p> <p>◎学生が自分で考え工夫していくことを目指す。</p> <p>◎2年間での体験を通しての自身の学びが重要。</p> <p>◎学問だけでなく体験を通した学びが大事。</p> <p>◎2年間ではあるが、手ごたえや実感する機会を作っていきたい。</p>

今回の聞き取りから、1. 各養成校において、①体験、②コミュニケーション能力、表現力、課題解決能力の育成、③今後につながる土台をどのように作っていくか、卒業後の学びも見据えての2年間をどのように過ごしてもらうか、といった課題に試行錯誤しつつ取り組んでいること、2. 白梅でもこれらの課題に取り組む必要があること、3. 現場とも協働しながら、在学中の2年間だけではなく、卒業後も含めた長いスパンで取り組んでいく必要があることがわかった。

今後、今回実施できなかったC短期大学への聞き取りを含めて研究を行うとともに、実習時期の違い(メリット・デメリット)、実習に向けて準備すべきことの整理などを行い、提言にまとめる。また聞き取りの比較から、保育者養成において白梅(保育科)が大切にしてきたこと、すなわち①子どもを一人の人間としてみること、②子どもの尊厳(対等)、③子どもの権利の重視など「子

どもをどのように見るか」は、本学ではあたり前のように感じ学生に伝えているが、あたり前ではないことも示唆された。カリキュラムや教員組織が変化していくなかでも、意識的に伝えられるよう共有することが重要であると考える。